

報道関係者のみなさんへ

## 都子さんメモリアルについて

今日のこの機会に、メモリアルコンサートに関わる私見を述べさせていただきます。

メモリアルとは「故人や過去の出来事を記憶にとどめておくための記念物または記念行事」とされています。

ここ魚津市で都子さんの遺体が発見された出来事が直接のきっかけであり、もっとも鮮明に記憶に残るであろうことです。

慰霊碑の碑銘にあるように、この事件の発端から、失踪とされて、「救う会」「さがす会」などの運動が繰り広げられ、やがてここで都子さんの遺体が発見されるにいたる経過、その後の経緯などを記憶にとどめ語り継いでいかなければなりません。

問題は多岐にわたりますが、マスコミ関係者には、どうしても言うておかなければならないことがあります。

この事件、あるいはオウム関連の一連の事件で、マスコミは歴史にのこる大きな汚点を残しました。松本サリン事件では警察とマスコミによって河野さんが犯人に仕立てられました。坂本さんの事件では放送前のビデオがオウム側に提供され、その後の展開に大きな影響を及ぼしました。マスコミの皆さんには、このことを「メモリアル」として記憶に刻んでおくことを切に望みます。

今回「記者会見」を行うことにしたのは、無用な混乱を避けたいとの判断によります。取材あるいは報道を控えていただきたいと申し上げた事項については、守ってくださるようお願いいたします。それ以外については、できるかぎりわけへだてなく取材に応じます。どのように報道するかは各社の判断によるのは当然ですし、取材も報道もしないという判断もまたありうるでしょう。わたしたちがとやかく言う筋合いのものではありません。ただ、事実関係に誤りのないようにしてください。

99年の慰霊碑前での追悼演奏の際、鮮やかな虹が現れ、慰霊碑に刻まれた都子さんの詩との奇跡的な符合に驚嘆しました。このことは都子さんの父・大山友之さんの著書に「形にないメモリアル」として紹介されています。

わたしたちは、事件以前の、都子さんたちの生き方にも思いをいたしています。すなわち、都子さんの詩にある、人と人、人と自然の共生を願う姿勢におおきな共感を覚えます。また、そういう生き方を貫いた先に、おぞましい事件があったことを思うと、更なる悲しみと怒りがわきあがります。

こんごは出来事としての事件を風化させないだけでなく、都子さんの思いを人々の心に伝えつづけていきたいと思えます。

2004. 09. 30 小熊清史

(都子さんメモリアル・愛とヒューマンのコンサート実行委員会 委員長)